# 調査研究終了報告書

#### 研究分野:環境

調査研究名	福岡県における希少植物・群落の分布特性とその保全に関する研究
研究者名(所属) 印: 瘀恍緒	須田隆一(環境生物課 ) 真鍋 徹(北九州市立自然史・歴史博物館 ) 藤原道郎(兵庫 県立大学 ) 清水英幸(国立環境研究所)
本庁関係部・課	環境部自然環境課
調査研究期間	平成18年度 - 21年度 (4年間)
調査研究種目	1. 行政研究 課題研究 共同研究(共同機関名:北九州市立自然史·歷史博物館、兵庫県立大学、国立環境研究所) 受託研究(委託機関名: ) 2. 基礎研究 応用研究 開発研究 ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第3次実施計画	柱 : 快適で潤いのある循環型社会づくり 大項目: 地球的視野に立った環境の保全と創造 小項目: 豊かな自然環境の保全と再生
福岡県環境総合基本計画 (P20,21) 環境関係のみ	柱 : 自然環境の保全と創造 テーマ: 生物多様性の保全、希少野生生物の保護
キーワード	希少植物 希少群落 レッドデータブック 分布状況 保全区域

### 研究の概要

#### 1)調査研究の目的及び必要性

平成13年に発行された福岡県レッドデータブック (RDB2001) には、580種の希少植物 (RDB 植物 ) 55の希少群 落(RDB 群落;単一群落として記載されているもの)が選定されている。これらの中には国定公園、県立自然公園などの法令による保全区域以外に分布しているものも多く、効率的な保全方策の展開が望まれている。そこで、本研究は、RDB 植物・RDB 群落の分布状況と既存の保全区域との関係を検討し、新たに保全指定が望まれる区域などを 抽出することを目的とする。また、平成19年度より福岡県 RDB の改訂事業が開始されたことから、RDB 植物・RDB 群落の新規分布情報を得るとともに、特に RDB 群落については群落区分及び評価ランクの妥当性なども検討する。 本課題は、本庁自然環境課提案による行政要望に基づき実施する。

## 2)調査研究の概要

分布状況と保全区域の関係検討:RDB 植物・RDB 群落の既存分布情報を国土数値情報3次メッシュ(約1km メッシュ)単位で電子データとして整備する。既存の保全区域についても3メッシュ単位で整備する。両者の関係をギャップ分析(実際の分布と既存の保全区域とのギャップ(隔たり)を見つける手法)などを用いて検討することに より、新たに保全指定が望まれる区域などを抽出する。

RDB 植物・RDB 群落の新規分布情報把握:これまでの調査が不十分な地域を対象に、現地調査により RDB 植物 ・RDB 群落の新規分布情報を得る。RDB 群落については、群落区分及び評価ランクの妥当性なども検討する。

3)調査研究の達成度及び得られた成果(できるだけ数値化してください) 保全区域外であるが RDB 植物・RDB 群落が存在する区域として、1)筑後平野クリーク・筑後川最下流域、2)遠賀川中流域、3)福岡・筑豊・北九州地域の里地里山域などが抽出された。保全区域外の RDB 群落には、草本群落が比較的多い傾向があった。RDB2001では、草本群落は複数の植生単位を含んで単一群落と記載された場合が多かったため(たとえば、河辺草本群落、大ちと、草本群落の公割記載を担索した。 草本群落の分割記載を提案した。

新規分布把握 RDB 植物として、自生地が極めて限定されるアサザ、トチカガミ、エヒメアヤメ、ナツエビネ(以上、全て絶滅危惧 A類)などを確認した。また、RDB 群落として、クマイザサ群落、イワヒバ群落、アイアシ 群落、イセウキヤガラ群落などを確認した。

4)県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

4)県民の健康の保持又は環境の保室への負割 改訂 RDB では、保全対策に関する提言が各分野ごとに記載されることになっており、今回得られた結果は、植物・植物群落分野において活用される。また、現在、生物多様性基本法に基づく生物多様性福岡県戦略の策定作業が着手されており、今回の結果は、県土レベルにおける生物多様性保全施策を検討するための基礎資料となる。

5)調査研究結果の独創性,新規性 個々の種を対象とした絶滅危惧植物の保全に関する研究に関しては、対象種が極めて限定されるため、保全施策へ の貢献は僅かであるとの指摘があった。本研究は、全ての RDB 植物・RDB 群落を対象に、保全区域との関連性から 県土レベルでの保全施策を検討した点に独創性がある。

6)成果の活用状況(技術移転・活用の可能性)

生物多様性福岡県戦略の策定においては、県土レベルでの生物多様性ホットスポットなどの抽出が望まれるが、今 回の手法は、そのための第一歩となる。